

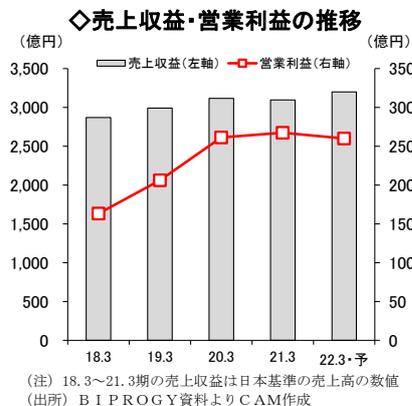
企業ニュース BIPROGY

(東証プライム : 8056) <https://www.biprogy.com/>

作成者:村上大志

大手SIの一角

2022年4月1日、日本ユニシスからBIPROGYへ社名変更。1958年、設立。経営コンサルティングからシステムの設計・開発・運用・保守等サポート業務まで、システム開発をトータルで提供する大手SI（システムインテグレーター）の一角。金融や製造、商業・流通、電力・サービスなど幅広い分野で顧客基盤を築いており、顧客数は5,000社以上。2021年5月に策定した経営方針（2021-23）では、24.3期の売上収益3,400億円、調整後営業利益率*10%以上などを目指す。21.3期の区分別売上収益構成比はサービス71%（システムサービス31%、サポートサービス17%、アウトソーシング19%、その他サービス4%）、ソフトウェア10%、ハードウェア19%（コンピュータ販売18%、コンピュータ賃貸収入1%）※調整後営業利益：売上収益－売上原価－販売費及び一般管理費



DX案件が好調、収益性改善に期待

22.3期・第3四半期累計（4-12月）の連結業績は売上収益が2,178億円、前年同期比0.1%減、営業利益が188億円、同7%増。ハードウェアにおける大型案件の反動減で若干の減収となったが、利益面では利益率の高いDX（デジタルトランスフォーメーション）案件を中心としたシステムサービスの増収効果などで増益となった。システムサービスの受注が好調で受注残高は2,407億円、同8%増と順調に積み上がっている。

22.3期の会社計画は売上収益が3,200億円、前期比4%増、営業利益が260億円、同6%増。第3四半期は想定通りの進捗となった。高水準な受注残高から、通期計画の達成確度は高いとみられる。好調なDX案件では、銀行向けに提供している国内初パブリッククラウドを活用したフルバンキングシステムにおいて新規ユーザーへの展開が進み、顧客基盤が拡大している模様。また、小売業向けにEC（電子商取引）のプラットフォームサービスの導入を上期より開始した。大手通販企業など複数顧客に導入を開始しており、業績への貢献が期待できよう。

【株価動向・投資判断】

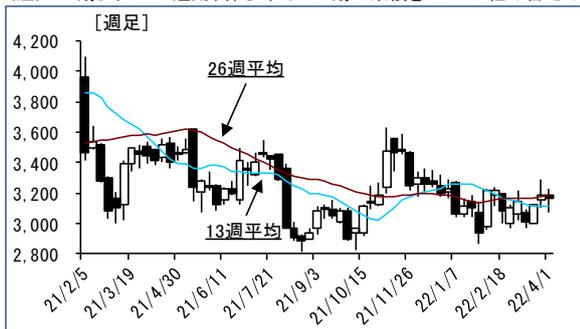
DX案件を中心に受注は堅調に積み上がっている。利益率の高いDX案件の増加で収益性改善が見込まれ、業績拡大が期待できよう。

<8056 ビプロジー 業績:IFRS>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上収益 百万円 (伸び率)	営業利益 百万円 (伸び率)	税引前利益 百万円 (伸び率)	当期利益 百万円 (伸び率)	1株利益 円	1株配当 円
20.3	311,554 (4)	26,139 (27)	26,615 (30)	18,182 (28)	181.2	70.00
21.3	309,685 (▲1)	26,724 (2)	26,544 (▲0)	17,076 (▲6)	170.1	70.00
22.3 推	320,000 (4)	26,000 (6)	25,600 (4)	17,500 (5)	174.4	70.00

(注) 22.3期よりIFRS適用、伸び率は21.3期の業績をIFRSに組み替えて算出。20.3、21.3期は日本基準、売上収益は売上高、税引前利益は経常利益



[主要株価指標] (売買単位: 100株)	
株価 (2022/4/1)	3,170 円
年初来高値 (高値日)	3,290 円 (22/3/23)
同 安値 (安値日)	2,868 円 (22/1/27)
予想 P E R (22.3推)	18.2 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	1,193.8 円
P B R	2.66 倍
予想配当利回り (1株当たり配当金70.00円)	2.21 %
R O E (21.3)	13.4 %
発行済み株式数	10,966 万株